

思いきつて切る! カンキツの

大胆千エロビックせん定

いよいよせん定シーズンの到来。

太い枝を切るのは収量が落ちたり、反発があつたりしそうで

なかなか勇気がいる。

でも、切り方さえ工夫すれば、

チェンソーで豪快に行ける!

作業はラクになるし、果実もよくなる。

そんなせん定方法を紹介。



垂れ枝の中玉ミカンづくり 上

樹の内側から芽が吹く 立ち枝ばっさりせん定

長崎県時津町・吉川正則さん

その噂が広まって、和歌山から視察が来たり、指導を頼まれたりすることもある。近年体調を崩して、自分が「青島」は面積を減らしてしまった吉川さんだが、町内では1・5haほどのせん定を頼まれるほど、その腕は評判だ。

吉川正則さん（74歳）。早生ミカン25a、高糖系の「青島」は現在は自家用程度を栽培（とくに断りがない限り、写真はすべて赤松富仁撮影）

チェンソーで ズバズバせん定

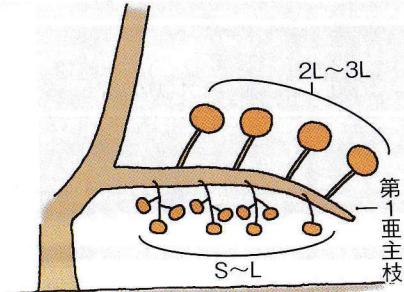
「ウイーン」と音を立てて木くずを飛ばしながら、ミカンの太い枝がチェンソーで切られていく。たった15分で樹1本のせん定が終わり、切られた太い枝が地面にすらりと並んだ。迷いなくチェンソーをうならせてているのは、長崎県時津町でミカンづくり50年以上になる吉川正則さん。亜主枝上の立ち枝と邪魔な横枝をばっさり切ることで、毎年中玉の高糖系ミカンを収穫する。名付けて「吉川式せん定」。



吉川正則さんが横枝を元から切っているところ（赤松富仁撮影）

カンキツの大胆チエンソーセン定

図1 第1亜主枝の立ち枝には大玉、垂れさがった枝には小～中玉がつく



*わかりやすいように実のついた枝だけ図にした場合

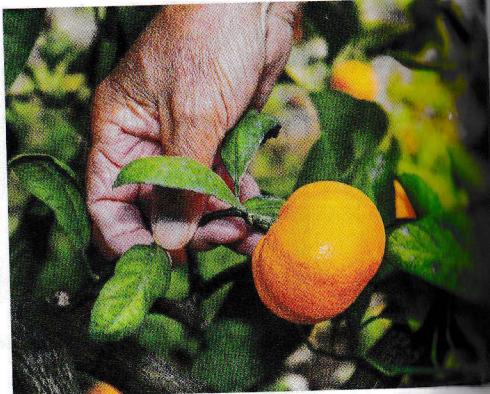
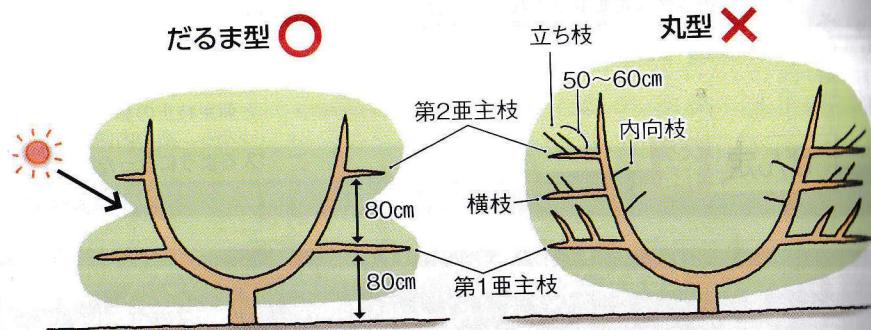


図2 立ち枝と横枝を切ると光が樹の内側まで入る



第1亜主枝の高さと第2亜主枝との間隔は80cmにする。第1亜主枝の高さは腰のあたりが目安で、この高さなら垂れたミカンが地面につきにくい。

だるま型は内側に芽が吹く
吉川さんの理想とする樹の形は、だるま型。立ち枝と亜主枝以外の横枝を残してしまって樹全体が丸い形になり、樹の外側の葉にしか光が当たらなければ、ミカンも外側にしか成らない。



立ち枝や横枝、内向枝は元からしっかり切ることが大事。切り口が10円玉よりも大きかったら癒合剤を塗る



小さなミカンがつく

吉川式せん定が生まれたのは20年ほど前。当時、市場で求められるミカン像が大きく変わってきたのを、吉川さんは感じていた。以前は3L、4Lサイズの大きなものが求められたが、ハイヌミカンの影響もあって小さいミカンの需要が増えってきた。

高糖系のミカンはとにかく樹勢が強い。隔年結果も激しくて大玉になりやすい。当時の時津では栽培をやめてしまってほど苦労している人が多かった。

「これからは小さいミカンの時代。高糖系ミカンの樹ば落ち着けんといかな」と考えた吉川さん。高接ぎをしたミカンの樹を見ていて、あることに気が付いた。

高接ぎした樹は3年目から実をつける。しかし枝が細いので実をつけた枝は重れさがる。そこには扁平でキメの

細かい小さいミカンができる。一方、高接ぎをしていない樹の立ち枝には、肌が粗くて味の悪い大玉のミカンができている。これは、枝が寝ているところには養分がゆっくり少量ずつ流れれるが、立ち枝は勢いよくたくさん養分を引き上げて、それを果実へ流すからではないかと吉川さんは考えた。大玉になれば実の中の養分は薄まるので

糖度が低く、玉が小さければそのぶん養分は凝縮され糖度が上がる。だつたら、立ち枝を切つて、垂れる枝を増やそうと考え出したのが、小さいミカンがつく吉川式せん定だ。

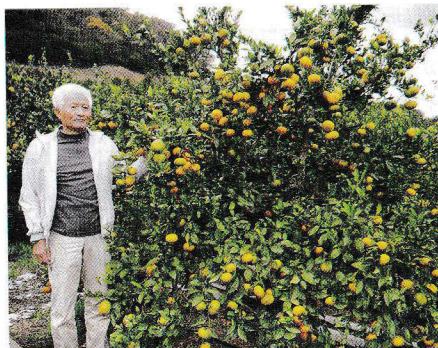
元から切れば反発しない

せん定は50～60cmの立ち枝をすべて元から切ることにした。亜主枝は80cm間隔で1本の主枝に2本配置し、その間に出て横枝や内向枝も切り落とす。青島は弱せん定が主流なので、日焼けや樹形の大きな変化を怖がって立ち枝

や横枝の途中で切ると、かえって反発して強い枝が出てしまう。思いきって元から切るのがポイントだ。

そこで登場するのがノコギリとチエソーソー。「ハサミを使うと、途中で切つて切り戻しせん定になるので強か枝が増えてくる。でもノコギリとチエソーソーで元からポンと切れば、間引きせよっと使うぐらいなのだ。吉川式せん定は「せん定」というよりも、樹の骨格をつくる整枝に近いものなのかもしれない。

カンキツの大胆チェンソーせん定



和歌山県海南市下津町の山口勝さん（74歳）。吉川式せん定をしている高糖系の「十万」の樹（編）

立ち枝を元から切った後に出る枝は細く、2～3年に実をつけて垂れかかるので、小さい実が成るちょうどいい母枝になる。これを繰り返すと年々立ち枝が減り、樹が落ち着いてくる。

お母さんにも喜ばれる

吉川式せん定は県外にも広がっている。その一人が和歌山県海南市下津町の山口勝さんだ。15年ほど前から吉川さんのところに10回近く通い、このせん定を取り入れている。以前は1haの高糖系の畑から3～4Lのミカンがコンテナ100杯もできて、大玉の果実にうんざりしていた。

「最初は思い切って元からはよう切らんかった」が、実際に吉川さんのところで習いながら切らせてもらってからは、自信を持って切れるようになつ

い。でも立ち枝と横枝を切つてだる丸型にすると、たくさん光が入り、樹の内側からも芽が吹く。その結果、葉面積が増えて樹の内側に実がつき、収量も上がるのだ。

最初の2～3年は少し収量が落ちるが、その後だんだん上がっていく。吉川さんは毎年4～5t収穫できるようになつた。

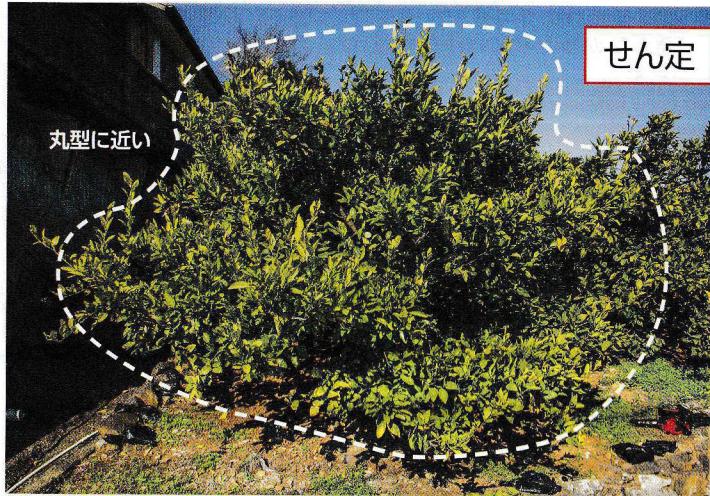
さらに、吉川式せん定をして枝が混み合わなくなると、作業性がぐんと上がる。農薬がかかりやすいのはもちろん、樹にも登りやすくなるのだ。

た。伸び枝上の立ち枝を丸から切りと、そこから出てきた芽にはちょうどいい大きさの果実がなり、かえつて収量は上がつた。今は多い年でも3L～

4Lのコンテナは20杯。なにより摘果や収穫のために樹に登りやすくなつたので、一緒に作業するお母さんに喜ばれている。

吉川式せん定は、じつは「せん定」だけの技術ではない。5月の有葉花摘蕾、10月の大玉摘果、11月の夏秋梢整理があつて初めて完成するので、今後数回に分けてそのワザを紹介していく。

“低コストでも安心、高品質”	
自分で増やせる光合成細菌は農業環境改善の強い味方です	
〔製品名：土壤や堆肥中の微生物種類：光合成細菌、菌糞向上など〕	
畜産、水田、ハウス、果樹、水産、産業、ボカシ、堆肥、生ごみ処理、合併浄化槽等広範な利用	
培養内容物も全て公開、ヘッドボトルや衣装ケースで簡単、格安に培養できます	(2回目からは20gが600円)
光元菌20g	5,000円
光材料20g×20回分	12,000円
生ごみ処理や家庭菜園に	
生ごみ光元菌2L×3本	3,500円
セット光材料20g×20回分	
堆肥化や有機物の急速分解に著効な耐熱性バクテリス菌	
八元菌20g×20回分	9,000円
八材料20g×20回分	3,500円
消費税込、送料込、代金後払、郵便振替	
三河環境微生物 さとう研究所	
愛知県岡崎市舞木町孤山30-19	
TEL 0564-48-2466	
FAX 0564-48-3260	



せん定 前

吉川式せん定を取り入れている近所の園地。何度か吉川式せん定をしているが、まだ丸型に近い



亜主枝の間にあった横枝と亜主枝上の立ち枝を切つたら、樹の内側に光が入るようになった



せん定 後